

生田京子

名古屋大学大学院 工学研究科 助教

居住者 - 地域間の関係構築に適した高齢者住宅の形態に関する考察

～介護サービス拠点に近接する小規模事例について～

本研究では、高齢期に重視される住まいの要件として、「身体状況に変化がある中で外部や他者との関係性をいかに形成・維持できるか」に着目し、居室と共用空間（外部・内部）の接合形式、居住者の共用部分との関係性や、生活展開について調査分析を行った。

分析の前半では、高齢者住宅（高専賃）の空間構成の全国的傾向を把握した。

後半では、高齢者住宅7事例を見ながら、他者との関係性とハードやソフトとのかかわりについて考察を進めた。

他入居者との関係性は、自立期には良き「お隣り」程度の関係から、外出がままならなくなるにつれて目が高齢者住宅内に向き、他入居者や常駐職員と疑似家族のような関係を持つように変化する。求められる職員との関わりも隣人的に会話する程度から、共用リビングにいつもいる職員と時間を長く過ごす姿へと変化していく。空間的にはさりげない日常行動によって互いに安否が確認される空間づくりが重要である時期から、徐々に自宅のリビングのような場が求められるように変化していく。しかしそれと地域からの来訪者をひきこむ空間の両立が難しい。これらの変化に対応した空間のあり方について考察を加えた。